

第2学年道徳学習指導案

平成31年 2月 6日 (水)

生徒数 男子 3名 女子 5名 計 8名

指導者 教諭 田口 淳一

1 主題名 きまりを守る 【C(10) 遵法精神】

2 資料名 「許さない心」(出典:道徳2年 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

本主題は、内容項目C(10)「法のきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」をもとに設定したものである。

我々は、社会の一員として暮らしている。すべての人が、平和で安心な生活を送ることができるためには、人々が一定のきまりや約束を守り、社会の秩序を維持させていくことが大切であることを理解する必要がある。しかし、中学生の時期は、きまりや規則について疑問を持ち始める時期であり、これが自己本位なものの考え方と重なって、自分さえよければ、あるいは直接他人に迷惑をかけなければ、きまりや規則を破ってもかまわないと考える傾向がある。

そのような傾向から脱するために、遵法の精神を持つことが重要であることに気付くことで、生徒同士で互いにきまりについて考え、秩序のある安定した学校生活を送ろうとする心情が育つと考える。

(2) 生徒の実態

小学校の段階では、特に高学年で、法やきまりの意義や権利を大切にし、義務を果たすことの意義について学んできている。中学校の段階でも、入学して間もない時期には、法やきまりに従えばそれでよいと考え、「ルールだから守る」と捉えている生徒が多い。本学級の生徒は中堅学年となり、学校生活の中で求められる役割と責任が大きくなる中で、法やきまりについてその意義を一層理解することができるようになってきている反面、法やきまりは自分たちを拘束するものとして反発したり、自分の権利は主張するものの、自分の果たさなければならない義務をなおざりにしたりする傾向も見られる。

例えば、生徒総会で制服と体操服で過ごす時間帯、着替えるタイミングについて全校で議論したが、過ごしやすさや着替えの手間を省きたいとの思いから、体操服やジャージで学校生活の大半を過ごそうとする意見を通そうとしたり、提出物や課題の期限があるにもかかわらず日頃の多忙な活動を理由に守れないことを正当化しようとする一面もあった。そのような言動が時々起こるのは、学校のきまりについて知っているが、その意義について十分に理解できていないことが原因であると考えられる。

しかし、12月には生徒会役員改選があり、2年生が学校をまとめるリーダーとなるという見通しも立っており、自分たちがよりよい中学校にしていかなければならないという自覚も育ちつつある。

本時では、わたしの言動を通して、きまりを守ることはきゅうくつに感じることもあるが、きまりがなければ社会が成り立たないこと、そして、悪いこと、だめなものはだめと言える心を持ち続けることが大切だという心情を育てたい。

(3) 資料及び指導の方策

本資料は、平成元年度「少年の主張全国大会」における発表を収録したもので、祭りの騒ぎの中で問題行動を起こした中学生、高校生に対し、怒りをぶつけた作文である。

前半は中学生の喫煙の問題である。注意した男子生徒や仲間の正しい行いを誇りに思い、注意をすなおに受け止めない他校の生徒を残念に思っている。後半は、高校生の暴力事件を取り上げている。作者は、その原因を、自分には関係ないとする一般の高校生の無関心さにあると考え、また、「規制されると破りたくなるのが若者の心理」とする心理学者の分析に疑問を投げかけている。そして、作者はこの2つの出来事から悪いことは許さない心を持ち続けることが大切だと結論づけている。

作者の考えに共感すると考えられるが、生徒が日頃の自身の生活を振り返った時に、学校のきまりをきちんと守ることができていないことがあることを思い返すと、自身の中に矛盾が生じ、葛藤すると思われる。そういった矛盾を種にして、きまりや規則を守ることの意義を見出し、秩序ある安定した集団生活を送ろうとする心情の育成につながると考える。

指導にあたっては、作者に共感することを目的とした偏った指導にならないよう、気をつけなければならない。実生活を振り返り、きまりや規則・約束を守ることの大切さは分かっている、実際にきまりや規則・約束を守ることができていないこともあるということに気付かせ、生徒の中に芽生えた葛藤を見逃さずに、「自分ごと」としてきまりや規則を守ることの意義を仲間との意見の交流を通して見出し、いくような指導を心がけたい。

4 本時の学習

(1) ねらい

「住んでいる町の祭り」や「ねぶた祭り」での出来事についての「わたし」の考えや思いを通して、社会生活の中で、一人一人がきまりや規則をしっかりと守ることの大切さに気づき、安定した集団や社会をつくろうとする心情を育てる。

(2) 研究の視点

- ① ねらいと評価の一体化がなされた指導ができているか。
- ② 生徒が主体的に課題解決に取り組む発問がなされているか。
- ③ 効果的な言語活動がなされているか。

(3) 展開

過程	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価等
導入 5分	1 学校や社会の規則について話し合う。	<p>○バス停の写真を見て、どんなことを感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きちんと並んでいる。 ・待っている人たちがそれぞれによく考えている。 <p>○並んで待つのはルールだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくわからない。 ・ルールだと思う。 ・ルールではなくお互いの思いやりかもしれない。 <p>○みなさんは並んで待ちますか？（挙手）</p> <p>○横断歩道を正しく渡っている写真と信号無視をして渡っている写真を見て、どちらが正しいですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青で渡る。 <p>○それはなぜですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通教室で習ったから。 ・ルールだから。 ・法律で決まっているから。 <p>○信号無視をして横断歩道を渡ったことがありますか？（挙手）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青信号でわたるのはルールだとわかっているのに、なぜ破るのだろう。 ・破るのであれば必要ないでは。 	<p>○バス停で整列して並ぶ人々の写真を提示し、バス停で並んで待つのはルールではなくそこで待つ人たちの周囲への気配りが行動となったものであることに気付くようにする。</p> <p>○信号無視をして横断歩道を渡る人々の写真と信号を守っている人々の写真を提示し、横断歩道を渡る時には身の安全を守るためにルールがあるが、自分の都合でそのルールを破ることがあることに気付くようにする。</p> <p>○周囲への気配りをするによって、ルールがないにも関わらず、並んでバス待つことができるのに、横断歩道では命の危険にさらす信号無視をするルール違反があることを認識することで、「きまりや規則」の必要性について、自ら考えようとするめあてを設定する。</p> <p>○この時点で、「きまりや規則」を必要だと思うかをホワイトボードに生徒のネームプレートで貼り出させ、変容がわかるようにしておく。</p>
めあて：「きまりや規則」があるのはなぜだろう。			

<p>展開 35分 (20)</p> <p>(15)</p>	<p>2 「許さない心」1 (前半) を読んで考える。</p> <p>3 「許さない心」2 (後半) を読んで考える。</p> <p>4 「きまりや規則」を守るために大切なことは何か考える。</p>	<p>○もし、同じような場面に遭遇したら、あなたはどうしますか。 (中学生の喫煙)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分には関係ないから、注意しない。 ・悪いことをしていると思うが、トラブルに巻き込まれたくないので、見て見ぬふりをする。 ・悪いことなので、勇気を出して注意する。 <p>○新聞にのっていた「高校生の声」や「心理学者の分析」についてどう思いますか。(高校生のけんか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりや規則を破ることにあてはまらないかもしれないが良いことではない。 ・周りの迷惑を考えるべきだ。 ・心理学者の言うこともあてはまる部分もあるが、いつもそうだと思われたくない。 <p>◎「きまりや規則」が守られていくためには、どのような心構えが大切でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人に迷惑をかけないようにするためには、周りのことを考えてがまんする気持ちが大事だと思う。 ・きまりを守らないということは、誰かを傷つけたり、困らせたりすることにつながるという考えが大事だと思う。 ・きまりを守ろうとすることは、人間を大切にすることだと思う。きまりを守って、お互いが大切にされる社会をつくっていききたい。 	<p>○2つの出来事を整理し、生徒が自分の立場で考えを持つようにする。</p> <p>○きまりや規則を破られるのは、自分さえよければ、他はいつでもいいという考えが、当事者だけでなく、社会全体にもあることに原因があることに気付くようにする。</p> <p>【 評 価 】</p> <p>きまりは集団や社会を形成する人々にとって大切なものであることに気付いて、自分自身との関わりの中で深めているか。 (発言、ワークシート)</p> <p>○自分にとって都合の悪いきまりが、他の人々にとっても都合が悪いとは限らない。きまりは、集団や社会が秩序立って維持され、それを形成する人々が安心して自らの人生を生きるための最小限の制限である。法律や規則と自由は相反するものではないことを気付くようにする。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>5 本時での気づきや考えをまとめる。</p>	<p>○今日の授業を通して、思ったこと、考えたことを書きましょう。</p>	<p>○この時間内の自分の変容が自覚できるよう「はじめは」「今は」という書き出しで書くよう促す。 (発言、ワークシート)</p> <p>○ホワイトボードに再度、ネームプレートを貼り出し、考えの変容を学級で見取れるようにする。</p> <p>○きまりを守ることが、安定した集団や社会をつくることにつながるということを意識づけたい。</p>

(4) 評価

2つの出来事についての「わたし」の気持ちを考えることを通して、悪いことを許さない心と、一人一人がきまりや規則をしっかりと守り、安定した集団や社会をつくらうとする気持ちを持つことが大切であることに気付くことができたか。